

## 『ゴルフの賞金と国際競争率の関係』

先週の松岡会員の香港の話と松本会員のマレーシアの話聞いてその物価の上昇に驚かされました。ということは日本とは違い物価に見合っ  
て給料がどんどん上がっているということです。そこでゴルフの賞金王の獲得額の変化を調べて  
みました。発展途上国におけるプロゴルフ賞金  
の変化は、20 年間で大きく変化しました。2003  
年には、発展途上国で開催されるプロゴルフト  
ーナメントの賞金総額は、わずか100 万ドル程度  
でした。しかし、2023 年には、その額は1 億ドル  
を超えるまでに成長しています。なんと100 倍以上です。

この変化の背景には、いくつかの要因があります。まず、発展途上国の経済成長に伴い、ゴルフへの関  
心が高まったことが挙げられます。また、ゴルフの国際化が進み、発展途上国でも海外のトッププロが参  
戦するトーナメントが増加したことも、賞金総額の増加に寄与しています。

具体的な変化としては、以下のようなことが挙げられます。

- ・ 発展途上国で開催されるプロゴルフトーナメントの数が増加しています。
- ・ 各トーナメントの賞金総額が増加しています。
- ・ 海外のトッププロが参戦するトーナメントが増加しています。

反面、先行して盛り上がっていた日米の賞金王の獲得額で比較してみると、日本においては1980 年か  
ら徐々にではありますが順調に上昇して最大で3 倍までにはなりましたが、それ以後は平行かやや低下  
傾向です。最大で約2 億円です。米国では1980 年から1998 年までは日本とほぼ同程度の額で推移し  
ていましたが、1999 年にツィガーウッズが大活躍してゴルフフィーバーが起こってからはスポンサーの契  
約が激増して3 倍の約7 億円に増加して最大10 億の年もあり日本の約5 倍でしたが、最近ではやや下  
降傾向で、伸び悩み状態です。

各、国野プロゴルフの賞金の推移をみると国際競争率とも似た変遷を遂げています。アジア勢では4 位  
シンガポール、6 位台湾、7 位香港(ゴルフ優勝賞金は20 年で10 倍以上)が国際競争率でも上位に位置  
しているにも関わらず、日本は35 位と低迷しています。日本の経済力を上げるのはまず地域からです。  
ロータリークラブでも、地域の経済発展に貢献するという目的を掲げています。そのため、地域のニーズ  
を把握し、地域の実情に合った活動を実施することが重要です。また、ロータリークラブは、会員の多様  
性とネットワークを活かして、地域の経済発展に貢献することができます。あまりロータリーでは手をつけら  
れてはいませんが、日本経済が衰えるのを黙って見過ごしているわけにはいかないように思います。日  
本経済の発展に寄与するのも今後のロータリーの課題とも考えられます。

どのように考えられますか？

2023	2022	国・地域	2023	2022	国・地域
1	1	デンマーク	11	8	フィンランド
2	11	アイルランド	12	18	カタール
3	2	スイス	13	21	ベルギー
4	3	シンガポール	14	9	ノルウェー
5	6	オランダ	15	14	カナダ
6	7	台湾	16	16	アイスランド
7	5	香港	17	24	サウジアラビア
8	4	スウェーデン	18	26	チェコ
9	10	アメリカ	19	19	オーストラリア
10	12	アラブ首長国連邦	20	13	ルクセンブルク
			35	34	日本

■欧州 ■北米 ■中東  
■アジア・太平洋

出典：IMD World Competitiveness Ranking